



展示棟スティールハット。  
4種の多面体が結晶のように連結した構成。  
幾何学のシルエットが特徴的。



2024年9月13日まで開催の展覧会「大三島みんなの参道物語」。さまざまな提案が展示されている。

二〇二一年に開館した「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」は、みかん畑の傾斜に囲まれ、美しい海を背景に建つ。黒い多面体の不思議な形をしている展示棟「スティールハット」と、アーカイブの保存とワークショップの場となる「シルバーハット」の二棟で構成されており、駐車場からの動線は、周りの景色を楽しみながら散策できるようにになっている。時とともに刻々と変化する光と影が建築の魅力をいっそう引き立てる。このミュージアムは、風景を含めた建物自体が展示なのである。

大三島を初めて訪れた時に、その美しさと島の持つ不思議な力に圧倒された伊東氏。「地霊の存在が伝わってくるような土地の潜在力を感じた」という。ミュージアム設立と同時期、東京で「伊東建築塾」を立ち上げ、塾生たちと足しげく大三島へ通い始めると、島の魅力を深く知る一方で、高齢化や人口減少といった課題を目の当たりにすることとなる。建築を通じて島を活性化させたいという強い思いを抱いた伊東氏は、「大三島を日本でいちばん住みたい島にする」という目標を掲げ、島の人々と塾生とともに活動を開始した。

瀬戸内の美しい島々を結び、本州と四国をつなぐ「瀬戸内しまなみ海道」。その真ん中にある大三島は、日本総領守の大山祇神社があることから「神の島」と呼ばれている。この歴史ある大三島に世界的建築家・伊東豊雄氏の名を冠したミュージアムがある。

二〇二一年の開館記念展「新たな船出」を皮切りに「日本一美しい島・大三島をつくろうプロジェクト」など、十数年の間に多くの企画をおこなってきた。現在は「大三島みんなの参道物語」と題した企画展を開催している。大山祇神社と、宮浦港とを結ぶ参道は、かつてはたくさん露店が立ち並び、港で船を降りて大山祇神社へと向かう参拝客が行き交うとても賑やかな通りだった。しかし、しまなみ海道が開通したことで人の流れが変わり、人の往来もまばらで以前の活気を失っている現状がある。

## 未来へつながる大三島の魅力

愛媛県今治市



伊東氏がかつて都内で住んでいた自邸を再生したシルバーハットは、金属のカマボコ状屋根（ヴォールト）が連なる。

### 今治市伊東豊雄建築ミュージアム

愛媛県今治市大三島町浦戸2418  
TEL.0897-74-7220  
開館時間/9:00~17:00  
休館日/月曜日(祝日の場合は原則翌日振替) 年末(12/27~12/31)  
観覧料/一般・840円・学生・420円  
※団体(20名以上)、65歳以上の方は2割引  
※高校生以下または18歳未満無料  
※障がい者とその介助者1名無料

学曾我部・吉岡研究室と関東学院大学柳澤研究室の協力を得てこのテーマに取り組み、企画展においてさまざまな提案を展示している。例えば、今治市の名産品であるタオルをのれんに見立て、参道を色とりどりに飾る案や、空き地の芝生化など。ないものを求めるのではなく、あるものを活かそうという理念が貫かれている。伊東氏の大三島を愛する心と地元の人々の熱い思いが交わり、また新たな道が拓かれようとしている。

伊東氏の活動に刺激され、十数年の間に多くの人が大三島に移住、さまざまな分野で活躍の幅を広げている。特に大きな成果のひとつが、二〇一五年にスタートしたワイン造りのプロジェクトだろう。かつて大三島は冬になると山の斜面が黄金色に染まるほどみかんの栽培が盛んな地域だった。しかし農家の高齢化により耕作放棄地が目立ち、荒れた山が増えてきた。そこで、耕作放棄地を地道に開墾し、醸造用ブドウの栽培に挑戦した。初年度のブドウは猪に食べられて収穫ができず仕舞いだったが、翌年からは収穫ができるようになった。二〇一九年には島内に醸造所が完成し、100%大三島産のワインがリリースされている。塾生が島の人々と一緒にリノベーションした「大三島みんなの家」も、ワイン販売所、イベントスペースとして活躍中だ。

ほかにも、移住者たちはめいめいが気に入った島内の地域で、パン屋、地ビール醸造所、カフェ、飲食店、宿泊施設などを

開業。今や大三島の人気スポットとして定着している。個人経営の小さなお店だが、どの店も個性的で、地域の魅力がいっぱいに詰まっている。島を一周しながら訪れてみるのも楽しいだろう。

移住者が始めたそれぞれの活動は、はじめは小さな「点」だったかもしれない。島の人々とのつながりの中でそれが一本の「線」になり、「面」になり、今では大きく「多面体」に成長した。それはまさしく伊東豊雄建築ミュージアムのスタイルハットの形のように。

大三島に魅せられた世界的建築家が蒔いた種は島全体に広がり、花を咲かせ続けている。この島の魅力は、地域が一体となって、島の人々がみんなで新しい未来を築こうとしているところにあるのだろう。



SANDO 人気スポット SPOT

大三島みんなのワイナリー

参道に佇むどこか懐かしい木造の建物は、元法務局の建物を伊東建築塾の塾生と島の人々がリノベーションして蘇らせたもの。現在はワイン販売所兼ワイナリー事務所として営業している。

愛媛県今治市大三島町宮浦5562  
 TEL.0897-72-9377  
 営業時間 10:00~16:00 (月曜日定休)

大三島ブリュワリー

参道の古民家で地元で愛されるクラフトビールを醸造している「大三島ブリュワリー」。伊予柑や八朔などの地元産柑橘で香りをつけたホワイトエールをはじめ、IPAやブロンドエールなど特徴的な味わいのビールを造っている。

愛媛県今治市大三島町宮浦5589  
 TEL.0897-72-9248  
 営業時間 12:00~20:00  
 (火・水曜日定休、臨時休業・臨時営業あり)

参道沿い



お立ち寄りスポット (生口島側)

I-LINK HOSTEL & CAFE SHIMANAMI

サイクリストに特化したホステル。客室はシングル、ツイン、ドミトリーの3タイプ。併設のカフェレストランでは地元の新鮮な食材を使った本格的な愛媛グルメが楽しめる。カフェ&レストランは宿泊以外のお客様もご利用可能。

愛媛県今治市上浦町井口7345-1 TEL.0897-72-8308  
 \*宿泊他、各サービスご利用につきましては、直接お問い合わせください。



WAKKA (わっか)

大三島ICから5分ほど車を走らせると目に飛び込んでくる白い建物が「WAKKA」。サイクリストや観光客をターゲットとした宿泊施設で、併設されたカフェで食事もできる。青い海が広がり、まるで地中海のリゾートのよう。

愛媛県今治市上浦町井口6691-1 TEL.0897-72-8705  
 \*宿泊他、各サービスご利用につきましては、直接お問い合わせください。



パン屋まるまど

地域おこし協力隊として移住した小松さんが経営する人気のパン屋さん。店頭にはみかん酵母のセミハードパンと、天然培養酵母の柔らかいパンがずらりと並び、繊細な甘みと旨みが口の中に広がり、噛むほどに奥行きを増していく。

愛媛県今治市上浦町井口5792 TEL.0897-72-8320  
 営業時間 11:30~18:00 売り切れ次第終了 (月・火・水曜日定休)

